

令和7年度第1回大阪府環境審議会生物多様性地域戦略部会

令和7年7月18日（金）

（15時00分 開会）

○事務局

それでは定刻となりましたので、ただいまから令和7年度第1回大阪府環境審議会生物多様性地域戦略部会開催をさせていただきます。本日の司会を務めさせていただきます、環境農林水産部みどり推進室みどり企画課の長谷川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

委員の皆様方には、お忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。

それでは、会議に先立ちまして、環境農林水産部みどり推進室長の田中の方からご挨拶申し上げます。

○田中室長

お忙しい中、大阪府環境審議会生物多様性地域戦略部会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。本日の部会では、地域戦略で定めた進行管理に基づきまして、取り組み内容の検証を行っていただきたいと考えております。

さて今年度は、企業向けの研修会やレッドリストの改訂、外来生物対策としてクビアカツヤカミキリの捕獲や、自然共生サイトの認定支援等の取り組みを庁内の関係部局や市町村、関係団体と連携して進めているところでございます。

また、来年度は地域戦略が中間年に当たりますので中間見直しも予定しているところです。府といたしましては、近年の企業などによる生物多様性保全取り組みニーズの高まり、ネイチャーポジティブといった考え方の主流化なども踏まえてこれらの取り組みを着実に進めていきたいと考えているところです。

限られた時間ではございますが、忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。本日よろしくお願いいたします。

○事務局

それでは、次に資料の確認をさせていただきます。事前にメールで資料1と資料2、および参考資料1～6までを送付させていただいております。資料の不足等がありましたら事務局にお申し出いただければと思います。本日の説明資料は事務局で画面共有させていただきます。

本日のご出席委員につきまして、深町委員はご都合が合わずご欠席ですが、7名の委員の皆様はオンラインでご出席いただいておりますので、生物多様性地域戦略部会運営要領第4（1）に基づいて本部会が成立しておりますことをご報告いたします。また、本部会は公開となっておりますことも併せてご報告いたします。

それではただいまから早速議事に入りたいと存じます。

以後の進行につきましては、生物多様性地域戦略部会の運営要領に基づいて、花田部会長に議長

を務めていただきます。よろしくお願いいたします。

○花田部会長

大変暑い中お集まりいただきまして、と言ってもオンラインですが、ありがとうございます。

それでは早速ですが議事を進めさせていただきたいと思います。

本日の議題は大阪府生物多様性地域戦略に基づく取り組み内容の検証ということで、取り組み内容についてご説明があると思いますので、先生方のいろいろなご意見を賜れればと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。では事務局からご説明いただけますでしょうか。

○事務局

（議題（１）大阪府生物多様性地域戦略の進捗状況について資料１及び資料２について、事務局より説明。）

○花田部会長

今年度の取り組みについて詳しくご説明をいただきました。昨年度につきましては、参考資料５－１に取り組み状況がありまして、それらをまとめたものが資料の２ということですね。資料２の左下は空欄になっていますけれど、ここはこれから皆様からいただいたご意見が入ってきて、審議会にご報告するという流れかと思います。

今のご説明に関しましてどの方向からでも結構ですので、ご意見をいただければと思います。

○佐久間委員

地域戦略について、毎年の活動でもそうなのですが、関係団体に広く意見を聴取する機会が欠かせないということをずっとお願いしています。

この部会を開催していただくのは結構ですし、保全協会さんを始めとする市民団体も入ってますし、生物多様性保全ネットワークもあるのですが、やはり生物多様性分野はとても幅が広い部分もあって、いろいろな活動をされているグループがありますので、そうした方の思いや意見をきちんと組み込まないと、府が勝手にやっている戦略になってしまいます。「私達は今までこういうことをやっていて、皆さまからのご意見を参考にして次の見直しをします」という姿勢を示すことは、絶対に必要だと思います。

なので、資料１に「素案提示」「意見反映」というかたちで書いていただけていますが、この間に府民からの意見聴取プロセス、公開のシンポジウムというようなことが絶対に欠かせないのではないかと思いますので、強くお願いしたいと思います。これなしに見直しは不可能と考えます。

また、レッドリスト改訂がやっとスタートしましたが、レッドリストを活用することが大切です。

ただレッドリストを用いて意識の盛り上げをするというような話ではなくて、きちんと行政施策に活かす方向で検討してください。保全地域をどのようなふうにするのか、あるいは生息地保全

というものを行政的にどうやって網をかけられるのか。それは OECM を活用しても良いのですが、例えば生息地保全、あるいは生息地の代償補償のような、行政政策として実効的に生物多様性保全に繋がられるような施策は何なのかをまずは考えてほしいです。

あと些細な点ですが、クビアカツヤカミキリの一斉捕獲は実効性のある動きなのかどうなのか、啓発イベントとしては大事なのですが、多少心配をしております。

○花田部会長

ありがとうございました。市民の方の声を聞き、改訂に反映させていくというのはすごく大切だと思うんです。時期的にはどのあたりだとおっしゃいましたか。

○佐久間委員

早い方がいいと思いますが、素案提出の後でないと大阪府もお話をする材料がないのかなという気はするので、6 月頃ですね。

○花田部会長

9 月の意見反映までの間ぐらいというタイミングでしょうね。

○佐久間委員

もっと早くできるのであれば、例えばアースデイや生物多様性の日に絡めるのが一番綺麗ですね。年度当初で大変だとは思いますが。

○花田部会長

それからレッドリストのデータベースを施策に生かしていくということは、本当に大切なところなので、そのあたりが盛り込まれた戦略になるべきだなと思いながらお聞きしておりました。ありがとうございました。

○寺川委員

2025 年度の主な取組み予定で、「多様な主体と連携した森・里・川・海における取組みの推進」というところ、去年も同じことが書いてありまして、この中身は参考資料 6 の水色になっているところが該当するのかと思って読んでいたのですが、具体的なことが書かれてないです。他部署のものも書いてあるのですが、実際何に一番重点を置いて取り組んでいくのかというところの補足がほしいと思いました。生物多様性応援宣言制度の推進や登録制度周知拡大は細かく書いてあるし、外来生物のところもクビアカツヤカミキリの捕獲大会等補足があるんですけども、取組みの推進だけがぼんやりしているので、検証するにはもう少しかいつまんでほしいなというのが一つです。

また、2024 年度に共生の森が自然共生サイトとなって、去年度の実績が書いてあるんですけども、自然共生サイトそのものの中身の質を上げていくことがとても大事だと思っています。大阪府が申

請して認定されたところが共生の森だけだと思いますので、共生サイトとしてリード的にやっていく必要があると思っています。そのあたりをぜひ今年の実組み予定として質を上げていくということを書いていただきたいと思います。共生の森に限ったことではなく、他にも特筆すべき組みの推進というものをあげて、それを検証していくようなかたちにしないと少し弱いというふうに思いました。

○花田部会長

ありがとうございました。この辺り、書き方もあると思いますし、量だけではなく質を上げるということについて事務局のお考えをお聞かせいただけますか。

○事務局

事務局としまして、特に共生の森につきましては大阪府の自然共生サイトのシンボリックな位置づけとしていきたいと考えております。まだ十分練れているものがないので、なかなかご提示できるものがないんですけど、例えば、自然共生サイトツアーみたいなものを使っていく、共生の森自体に関わっていただいている企業さんも減ってきてしまっているので多くの企業の皆様に関わっていただいて、共生の森の活動を盛り上げていくということも必要かなというふうに考えております。

○寺川委員

質というのはツアーや組みの主体連携という意味ではなく、例えば具体的に言うと今もずっと検討していますシギ・チドリの生息地としての池の水の調整は市民だけではできないんですね。予算も必要ですし、水位調整するためのポンプをつけるのかとか、それとも排水路が詰まっているのではといった話もあって、そういう本当の質として自然環境の質を上げていく具体的な取り組みと言うものが今後、量に伴って共生の森だけでなく他にもたくさん出てくると思います。

大阪府の申請で唯一自然共生サイトに認定された共生の森で、ぜひリーディングプロジェクトのように取り組んでもらいたいという意味です。

○事務局

ありがとうございます。おっしゃる通りだと思います。なかなか今後の方向性も含めて、十分に議論できてないところもありますので、寺川委員にもご協力いただきながら進めていけたらというふうに思います。よろしくお願いします。

○花田部会長

まさにそういうことだと思います。実際にやってらっしゃる方のご意見を反映していくことがとても大切だと思うので、ぜひどうしたらいいか考えるときには、実際に取り組んでらっしゃる方のご意見を伺ったらいかなと思いました。寺川委員、これからもよろしくお願いいたします。

それから、先ほど佐久間委員のところでもぜひ事務局のご意見をお伺いすべきでございました。後になってしまい大変申し訳ありませんが、事務局お願いできますでしょうか。

○事務局

いただいたご意見、全てごもっともというふうに感じております。見直しに関して府民の皆さまの意見を聞くことが重要だということについて、まだ具体的なところを考えられていないので、今後考えていけたらというふうに思います。

また、レッドリストを行政政策に活かしていくということについても、なかなか具体的な部分、制度設計はどうしていくか等、難しいところはあるかとは思いますが、いただいたご意見をきちんと反映していけたらというふうに考えております。

○花田部会長

ありがとうございました。

○前迫委員

モニタリング指標について、資料を見ると2020年度の「法令等に基づく地域指定の割合」は4年かけて24.6%から24.8%と0.2%しか増えていないので、2030年までに30by30が実現するののかという心配があります。

2025年度の取り組みとして自然共生サイト認定に向けた支援、令和7年度から令和9年度にかけてのレッドリストを改訂、そして調査研究の推進ということで、実質的に保全していくとか、今どうなってるのか調べていくということを2025年度の取り組みとしてやっていくということですが、ここもやはり府民の方の協力なしにはやっていけないと思います。レッドリスト改訂のグループは既に立ち上がってはいますが、その委員の何人かだけでやるような仕事ではなく、かなりここは力を入れないといけないところかなと思います。

また、先ほどのモニタリング指標を見ていくと、例えば「自然環境に配慮した行動をする府民の割合」は18.6%から12.1%に6%以上も減っていたりしますし、計画的には充実している部分があるにもかかわらず、数字的にはあまり上向きになった気がしないというような印象を持つんですけども、事務局としてはこの数字自体をどのように受け止めておられるかということと、2025年度に実効性のあるものにしていくにあたってどういうふうな具体的な戦略というか、これまでにないやり方をどう取り組んでいこうと考えておられるかを、少し教えていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございます。

まずレッドリストの改訂について委員だけで進めていくものではないというご意見をいただきました。そちらについては、関西自然保護機構さまのシンポジウムを活用させていただき、府民の皆

さまのご意見も聞きながら進めていけたらと思っています。

保護地域についても、法令での保護地域を広げていくのはなかなか難しいというのが 5 年間やってきた中での結果かと思いますので、環境省で新しくできました自然共生サイトを特に重点的に広げていけたらと思っています。特に大阪については都市部のみどりが少ないようでまだまだ残っているところもありますので、そういったところを広げていけたらなと思います。

「自然環境に配慮した府民の方の割合」の件については、なかなかずっと低いままであるというふうには感じてはいるんですけども、指標そのものの計測方法などにも問題があるのかなというところも正直あります。この指標で出ているよりは生物多様性や自然への関心ということについては比較的、浸透しつつあるように、肌感覚では感じております。ですので、そもそものこの指標自体を何か違うかたちで置き換えて進めていけたらと思っています。

具体的にどう進めていくかですが、まず特に力を入れたいと思ってるところは生物多様性応援宣言の関係の取り組みでして、今年度企業様向けに研修会を実施する予定としております。今年度 8 月と、2 月頃に応用編というかたちでも研修会実施します。

こういったことを通じてまず企業の方から、生物多様性への関心をもっと強めていけたらというふうに思っております。その中で企業を通じて府民の方に関心を広めていってもらえたらと思っています。また、企業向けの研修についても、単に生物多様性がどういうものか知っていただくというよりも、企業活動の中で生物多様性にどう関わっていただくのかというところを広げていけたらと思っていますので、この取り組みを特に重点的に広げていきたいと思っています。

○前迫委員

OECM について、これまでは自然環境が良いところを自然共生サイトとして位置づけてたのですが、ご存知のように今年度の春からはみんなが動くところ、市民が活動しているところも自然共生サイトにしていくというふうに変わっています。

大阪府下で言えば、湿地や里山はもちろんのこと、社寺林等も含めて市民の方に関わってほしい自然というのはまだまだあって、自然共生サイトの認定にあたっては、そういうものを行政もアシストして自然共生サイトに認定していくというふうに変わっていつているので、単にこれまでの自然共生サイト認定に向けた支援ということではなく、市民の方が動いてくれそうな場所を、動いていただけるように仕向けるといえるのか、協力いただくような場所をどんどん行政側から地域ごとに提案していくことも良いかと思うので、ここの取り組み方針 3 の中にそういうことも盛り込めたらいいなと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございます。特に自然共生サイトのところについて、おっしゃっていただいたようなことも考えてはいるところとして、事務局の方で、自然共生サイトになり得るような場所をピックアップしているところです。そういったところに、市町村通じて働きかけできないかなということも考えています。具体的に進めていけるように頑張っていきたいと思っています。

○前迫委員

各地域については、地元の人が活動するのが一番良いし、そのサポートを行政にお願いできると結構広がりができるかなと思うので、よろしくお願いいたします。

○岡委員

地域戦略の見直しについて、市民の意見、市民団体の意見とかを聞くというのはもっともだと思います。

また、基本的に4つの危機と言われる負荷について、洗い出しがしっかりできてないのではと思っています。どのように地域活動をしている場所に自然共生サイトを当てはめていくかというか。前迫委員もおっしゃられたとおり市民活動が盛んなところや重要なところを見直したりしていただければと思います。例えば第2の危機でしたら広大な放置された里山、水田でいえば、大阪府内ではこの50年間で耕作できなくなったところが7割もあるんですね。あまりネガティブになってもいけないですが、そういった劣化しているところをしっかりと洗い出して、主要なところをピックアップして、そこからまさに地域の戦略を立てながら、自然共生サイトであるとか、30by30であったり市民活動、行政、事業者、団体、市民等の活動をどのように繋げていくかという戦略を描けるような、見直しをしていかないといけないのではないかと思います。

取組み方針の1~3とありますが、こういったところも4つの危機を元にしながら、わかりやすいような戦略にする必要があるのではないかと思います。

○事務局

ありがとうございます。重要なお指摘と思います。ただ、一方で具体的に洗い出していくということになると、地域ごとの具体的な話になっていくので、大阪府全体での計画となってくると落とし込みが難しいところはあるかなというふうには感じました。いただいた意見も参考にしながら、次の見直しについて検討していけたらと思います。

○岡委員

私は市民団体にも所属しておりまして、府民からはやはり地域戦略について4つの危機から乖離しているのではという声を毎年聞きます。そのため、変えていければというふうに思っています。今取り上げられてる項目が、関わっていないということではありませんが、他にも何か本質的なこともやっぱり潜んでるのではと思います。

○花田部長

4つの危機を踏まえていることがわかりやすいような、提示の仕方はやはり大切ですね。

○佐久間委員

先ほど岡委員が「リストアップが十分ではないのでは」とおっしゃったことと、その前に事務局がリストアップを検討しているとおっしゃったことは、繋がるころだと思いますが、政策の透明性という意味で、行政の内部だけで決めるのではなく、市民団体や専門家とのレスポンスを持ちながら証拠立てて、「こういうふうを選定をしました」と言えなければ足をすくわれることもあるかと思えます。最初から全部フルオープンにするのは難しいとは思いますが、府庁内部だけの論理だけでなく行っていくようご検討ください。

また、岡委員がおっしゃった4つの危機、特に農業林業の衰退というところも含めて、生物多様性の社会課題解決がこの4つの危機にどう絡んでいくのかというところを、他部局とともにご検討いただきたいなということを強く思っております。

○花田部会長

4つの危機の解決にどう繋がっていくかというところを示すのはとても大切なところだと思いますので、ぜひ机上の空論の戦略にならないようにという点でも、事務局何かありますか。

○事務局

ありがとうございます。その視点を考えながら進めていけたらと思います。

○花田部会長

企業の方への研修会や企業を動かすというところが、経済という点で本当に大切なところだと思いますが、残念ながら庁内連絡会議構成員に、商工労働部が入っていません。経済がこれから発展していくときに、生物多様性というのはとても大切で、今までなら「直接的な原料として使う」、「直接汚している」といった、そのような企業しか関係ないと思われていたものが、それだけではなくてきていますよね。第4の危機はまさにそこに繋がるので、商工労働部さんが入ってくださって、商工労働部にとっても、生物多様性がこれからプラスになっていくというところを一緒に考えることも、戦略を進めていく上で重要なんじゃないかなと思います。商工労働部にそういう方向でお声掛けをしていただけるといいのかな思いましたが、いかがですか。

○事務局

ありがとうございます。大切なことかと思しますので前向きに検討したいと思えます。

○八木委員

企業としても、生物多様性に取り組んでいく上で、生物多様性が事業とどんな価値があるか考えていっているところです。その先にあるのは指標で価値を認めれるかといったところ。先ほどからご意見出ている中で、府民の皆さんの協力・理解、しかも今現状生物多様性を理解してくれている人たちではなく生物多様性の価値がどこにあるのか気づいていない方に気づいてもらう方法が必要であるという方面でも、自然共生サイトをうまく活用していただければと思います。

自然共生サイトをひとくくりにすると全部自然環境に良いものと捉えられてしまうかもしれませ

んが、共生の森のような自然の復活・希少種の保全という自然に近いところもある一方、当社が認定を受けた新・里山のような人工的に作り出してより自然に近づけたというようなみどりもあります。

都市部の近くにあるそういった所は、興味がある人もない人どちらも買い物のついでに行って、自然の大切さ、豊かさ、最近暑いから少しみどりの中に入って気温が違うということを感じてもらおう等、身近なところで感じる場所として活用しやすいんじゃないかと思います。そういう場所から徐々にレベルを上げていって、より自然に近いところに人を引っ張っていくというような仕掛けを作っていただけると、それをきっかけに府民の方々が取り組むきっかけになるんじゃないかなと思いますが、いかがでしょうか。

○事務局

はい、ありがとうございます。特に大阪においては、都市部が多い中で、都市部の中のみどりというところを府民の皆さまに感じていただいて、生物多様性に関心を持っていただくきっかけとすることが重要と考えております。

その都市部の中のみどりは、いわゆる生物多様性として質もまだ十分高くはないような場所も、少なくはないかなとは思いますが、そういったところでもまずは（自然共生サイトに）指定してもらって生物多様性の質を上げていってもらう活動をしてもらうことも重要なのかなと思いますので、そういった観点でも、自然共生サイトの取り組みを進めていけたらというふうに考えております。

○花田部会長

ありがとうございました。新・里山は、海外の旅行者の方が梅田付近にいらっしゃる際に立ち寄ることもあるとお聞きしています。また、家を建てる際に 5 本の木を植えていただくという取り組みも、それだけ都会の中に在来の木が増えて、その結果生物多様性が増えたというようなこともありますので、やはり企業で生物多様性に配慮した事業活動を行っていただけると、企業にもプラスになり、生物多様性にもプラスになると思います。例えば、企業にとって単に追加コストがかかるとか、そのような視点ではないということに、企業の方に気がついていただけたらと思いますので、大阪府の戦略でもその辺りを打ち出すことが、都市の戦略としてはとても大切なのではと思いますから、よろしくお願いいたします。

○寺川委員

府民の話と企業の話が出て、その通りだと思ってお聞きしていましたが、もう一つ危惧してるのは市町村の話です。先ほど府域全体のいろんなところをピックアップしていているとおっしゃっていたんですけど、大阪府全体を把握するのは府の担当だけではなかなか難しいと思います。また、まずは市民から市町村に話がいくと思うので、情報としても市町村に集まっているところもたくさんあると思います。

ただ、市町村が一生懸命になってるところはごくごくわずかなところというのは感覚的にありま

す。戦略について見てみると、資料に「市町村や保全団体等と連携したモニタリング体制の構築」、参考資料を見ますと啓発の取組み等は市町村に対して行っているということですが、2024 年や 2025 年の取組み予定というところでは市町村について一切出てこないんですね。

府内の各施設をピックアップするにしろ、府民と繋がるにしろ、市町村の役割はとても大きいと思うので、単なる啓発や勉強というだけでは弱いと思います。アイデアとしては、例えばアンケートで自然共生サイトの候補地が各市町村にあるか最低 1 ヶ所挙げてもらい、なぜそこがピックアップされたのかを市町村の担当と情報共有するなど、市町村に対してもう一段踏み込んだ啓発と取組みを進めることができればと思います。それが 2025 年度にすぐできるかどうかは別にして、方法として今後市町村向けに何か考えていただきたいです。

○事務局

ありがとうございます。市町村の役割というのは重要だと認識しています。

今年度は市町村会議の際に環境省にお越しいただいて新しくできた地域生物多様性増進法の説明をしていただきました。ただ、これは聞いていただいただけなので、なかなかそこから先に動いている市町村はまだないのかなとは思っていますが、ピックアップした自然共生サイト候補地を提示しながら、市町村の方で手続きを進めませんかというような呼びかけをしていけたらと考えています。

市町村の方が情報を多く持っているところもありますし、市町村主体でまず考えてもらうということも重要なと思いますので、先ほどご意見いただいた、市町村に候補を挙げていただく等も進めていけたらと思います。

○花田部会長

本当にそうですね。市町村会議の後にアンケートで書いていただいたらよかったかもしれませんね。

○平井委員

まずレッドリストなのですが、改訂が始まったことについて大変良かったと思っています。現行のレッドリストは 10 年経過してますので、現場とのずれをかなり感じています。

活用の問題はいろいろあるとは思いますが、掲載されてるものは配慮の対象となるし、掲載されていないものに関してはほぼ何も配慮されないという部分がありますので、重要なリストではあると思っており、改訂には大変期待しておりますということです。

もう一つ、自然共生サイトですが、資料 2 のモニタリング指標の一番右下の「法令等に基づく地域指定の割合」について、先ほど 0.2%しか増えていないという話がありましたが、これは自然共生サイトの増え分でしょうか。

○事務局

自然共生サイトは入っていないです。

○平井委員

そうですね。自然共生サイトは、法令等に基づく地域指定では足りないからそこにプラスしようという考え方ですので、「それを足したらこの数値になる」という書き方をしたらいいのではと思いました。

また、先ほどから市町村のお話もありましたけれど、土地の所有者がはっきりしていて土地所有者の理解が得られているところしか認定はされないの、入会地もありますし、「誰の土地かわからないけれど自然が残って保全団体の人は注目している」というようなところもたくさんあると思うので、そういう場所について市町村と連携して調整をすることができれば良いのではと思いました。

○事務局

ありがとうございます。特に最後ご意見いただきました所有者がわからない保全候補地の関係もとても大事な視点かなと思いましたので、市町村とも協力しながら進めていけたらと思います。

○花田部会長

ありがとうございました。先ほどのモニタリング指標の表ですが、参考値が2020年度ですね。2020年度ってコロナで動けなかった年で、この参考値にするには少し特殊要因が強いのではと今更ながら感じております。特に行動する府民の割合がこれだけ下がってるところで、不思議に思いましたが、そのあたりの事情をご存知ですか。

○事務局

単純に、策定時のタイミング的に2020年度の指標を使用しているものと思います。

○花田部会長

これから指標を考えるときに、基準年をどこに設定するかは考えた方が良いでしょう。コロナの前なら2020年度は、条約ができて10年目ですし、愛知目標の目標値でしたし、いろんなことで基準年としていい年だったと思うのですが、実際には動いてなかった年じゃないかなと思うので。

○前迫委員

数値の話で言うと、資料の取組み項目3-2-1に自然共生サイトの説明をした図があるんですが、大阪府のモニタリング指標「法令等に基づく地域指定の割合」は、日本版OECD（自然共生サイト）でなくて世界共通の中で認識されているOECDの数値をここに上げているということでしょうか。

新梅田シティや三草山ゼフィールの森等、いわゆる自然共生サイトという数字は別個持っておら

れて、それを足せば、基準が違うので足していいかどうかは微妙なところですが、24.8%に加えて日本版 OECM（自然共生サイト）の数値が何%になるのか、その数値もお持ちなんですよ。細かい話を今ここで議論してもというところはあるのですが、気になる数値でもあるので、その使い分けや定義を明確にして教えていただけるとありがたいです。

○事務局

ありがとうございます。整理させていただきます。

○岡委員

1-4-2 の市町村における地域戦略について、「事例を共有して検討状況とか策定に向けた働きかけを行う」ということですが、ここを具体的に教えていただきたいのと、戦略を作っておられる市町村はどれだけあるのかということも教えていただければ。

また、2-1-1-5 で、近隣府県と連携した取組みの推進について具体的にどのようにしておられるのでしょうか。

○事務局

まず、市町村の地域戦略については現在、和泉市・堺市・岸和田市・大阪市・枚方市の5市が作成しています。先ほど申し上げました市町村会議の中で、市町村での地域戦略作成について働きかけをさせていただいており、具体的にどういうふうに作成したらいいのかというところもご説明させていただいてます。

しかしなかなか具体的などころまで進んでいるところはないかとは思いますので、今後具体的に、特に自然共生サイトの取組み等で、市町村での取り組みが活発化していけば、この地域戦略にも繋がっていくと思いますので、そういったかたちでも進めていけたらと思っています。

次に近隣府県の関係については、関西広域連合で守りたい自然をピックアップしてツアーをするような取り組みをしておりますし、あとは特に外来生物対策なんかは近隣府県とも情報共有しながら取組みを進めていっているところです。特にクビアカツヤカミキリは大阪から発見されていていっているという部分もありますので、大阪から近隣の和歌山県や京都府に情報提供していっている事例はあります。

○岡委員

市町村の戦略は毎年大体同じような数で増えてはいないですね。各市町村のいろいろな事情もあるので一概には言えませんが、だいぶ前に大阪自然環境保全協会府内43市町村にアンケートをしたことがあり、現状や課題を答えてもらいました。一番しんどいところでは「担当のセクションがない」や、また「大阪府が作ろうとしているから」といった回答がありました。

やはりなかなか作りにくいということがあるので、例えば堺市のような完全型といいますか、がっちりしたものを最初から作るのではなくて、緑の計画のようなところから進めていただければ、

結果的にその市町村の実態に合ったものが少しずつできてくるのではと思いますので、また引き続き進めていただきたいと思います。

○花田部会長

ありがとうございました。

今、関西広域連合のお話が出たのですが、私は関西広域連合の有識者会議に入っていて、そこでいろんな話題は出てくるんですが、戦略そのものに関する話題は多分記憶にないんですね。事務局は滋賀県がやってくださってるんですけど、一度お聞きしてみようとは思いますが。またわかったら事務局にご連絡するようにします。

いろいろなご意見をいただきましてありがとうございました。特に活動関係の大切さがいろんなところで出てきたように思っております。それから指標等も見直して、やや精査した方がいいというようなところも出てまいりました。

資料2の左の下の、今空欄になってるところが、皆様のご意見が入るところでございます。ここにつきましては、事務局で案を策定してくださいます。その後、委員の皆様にご確認いただいた上で、最終的には部会長預かりでもよろしいでしょうか。

○委員のみなさま

(うなずく)

○花田部会長

では、そうさせていただきます。

本日の議題1につきまして、いろいろなご意見をどうもありがとうございました。本日は議題1つということですので、予定されておりました議事については終了いたしました。熱心にいろいろなご意見をいただきまして、また議事進行にご協力いただき、本当にありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。では進行を事務局にお返しいたします。

○事務局

花田部会長ありがとうございました。また委員の皆様、ご意見ありがとうございました。

これにて本日予定しておりました内容は以上でございます。

議事録につきましては委員の皆様にご確認いただいた後、本日の資料と併せまして公開させていただく予定ですのでよろしくお願いいたします。

これをもちまして本日の部会を終了させていただきます。長時間どうもありがとうございました。

(16時40分閉会)